

| | | |
|--|---|--|
| 研究構想シート | 学校名 | 美郷町立邑智小学校 |
| | 氏名 | 三上 恵美 |
| A 研究主題 自ら学び、自ら考え、共に高まり合う児童の育成 ～友だちと共に学び合う授業づくり～ | | |
| B 研究の目的 自ら学び、自ら考え、共に高まり合う児童を育成するための授業づくりの手立てや工夫を明らかにする。 | | |
| <p>C 子どもの実態</p> <p>(算数)</p> <p>○基礎的な計算問題などには熱心に取り組み、正確にできる。</p> <p>○考え方の道筋を作ったり、見通しを示したりすると、自分の力でできることが増える。</p> <p>○△算数の言葉を使って自分の考えを説明することに慣れてきた児童もいるが、個人差がある。</p> <p>△文章問題の文章を理解しないまま取り掛かろうとする。</p> <p>△思考を伴うような応用問題になると力を発揮しにくい。</p> <p>△既習事項をうまく使って考えることが難しい。</p> <p>(図工)</p> <p>○友だちの作品の面白さを見て、真似しようとする。</p> <p>○真似されることを嫌がらない。</p> <p>○子ども同士で関わり合いながら、作品作りに意欲的に取り組むことができる。</p> <p>○活動について説明すると、まずはとりかかってみようとする児童が多い。</p> <p>△ほめられる経験が少ないからか、友だちにほめられても反応が乏しい。</p> <p>△経験が少なく、道具の使い方に慣れていない。</p> | <p>E 手立て・内容(研究仮説)</p> <p>○「自ら学ば」せるための手立て …ICTを活用する。友だちの考えや工夫、作り方を知る。⇒自分なりの考えをもたせる。</p> <p>○「自ら考え」させるための手立て …既習事項を意識させる。めあての振り返りを行う。⇒試行錯誤させる。</p> <p>○「共に高まり合う」ための手立て …お互いに意見を伝え合う。ICTを活用する。自分と相手の考えや工夫を比べながら聴いたり話したりする。相手の考えや工夫についての良さを見つける。</p> | <p>D めざす子どもの姿</p> <p>(算数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かることから課題を進めようとする力。 ・友だちの考えを聞いて、自分の考えと比べたり、良い悪いを判断したりする力。 ・友だちに自分の考えをわかりやすく伝える力。(筋道立てて、算数の言葉を使って) <p>(図工)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こうしたい、こんな風に作りたい」という思いをもって作品作りに取り組むことができる。 ・友だちの作り方を見て、自分の作品作りに生かすことができる。 ・自分の作品の工夫について、言葉で説明することができる。 ・友だちの作品の良さについて、言葉で伝えることができる。 |
| | <p>F 検証方法</p> <p>【算数】</p> <p>○既習事項を使いながら児童同士が自分の考えを伝え、友だちの考えを受け止めるための手立てについて、成果と課題を整理する。(発言、態度、ノートやタブレット等記録、ふりかえりなど)</p> <p>【図工】</p> <p>○活動の途中で、児童同士で自分の作品について語り合う言語活動を取り入れ、その後自分の活動にどのように生かされたかのかを見とる。(発言、態度、作品など)</p> <p>○どのような言語活動を行えば、児童同士が学び合いながら学習に取り組むことができるか、成果と課題を整理する。(発言、態度、ふりかえり、作品など)</p> | |
| | <p>G 研究計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 研究主題についての共通理解(研究職員会) 2, 児童の実態、身につけさせたい力についての話し合い(校内教科部会) 3, 研究授業(6月 第5学年) 4, 授業実践、授業改善(1学期) 5, 授業づくり、教材研究(夏休み中) 6, 研究授業(10月～11月 訪問指導) 7, 授業実践、授業改善(2学期) 8, 研究の成果、課題、来年度に向けての方向性についての話し合い (研究職員会、校内教科部会) | |